

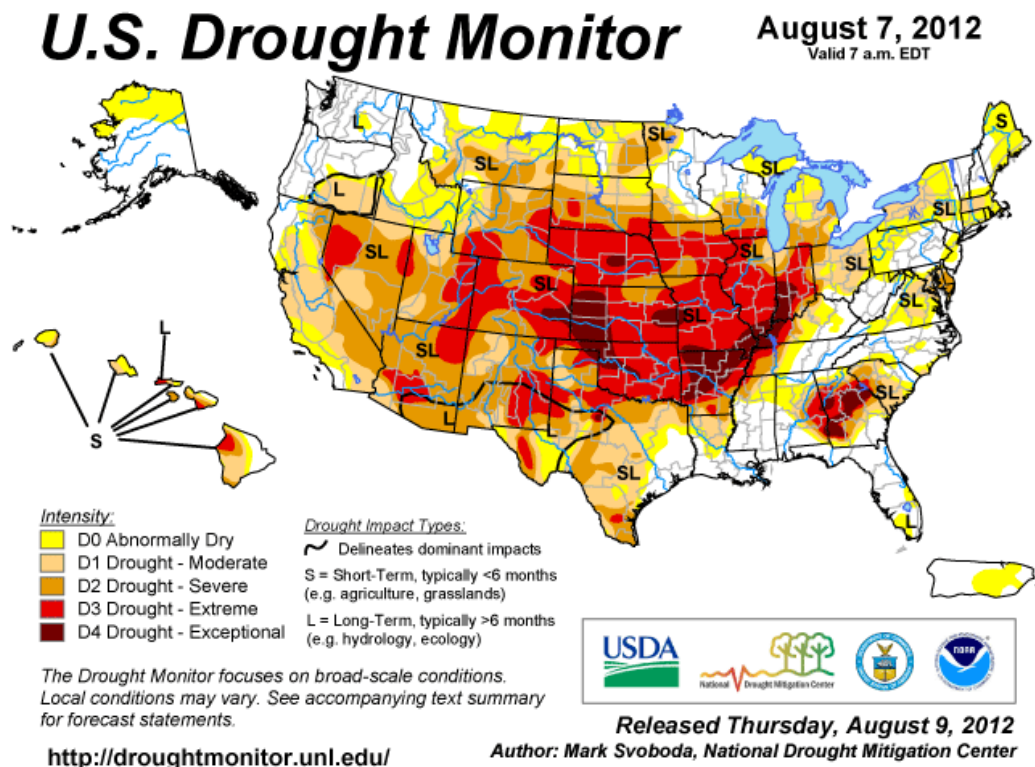
## 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

### 米国内の旱魃の状況（西海岸；雨当たり ⇔ 中西部；旱魃）

以下の図は、米国内の旱魃（Drought）の状況について示したものです。「8/7時点でどれだけ旱魃・日照りとなっているか」を示しています。現在、トウモロコシ相場は歴史的な高値で推移していますが、その主産地である中西部では、極めて（Extreme）ひどい旱魃、あるいは異常なほど（Exceptional）ひどい旱魃となっていることが、この図からも分かります。一方で、輸出向け乾牧草の主産地である西海岸のワシントン州（本土の一番北西の州）やオレゴン州（その南の州）、カリフォルニア州（その南の一番南西の州）では、あまり旱魃傾向ではない状況となっています。後述の通り、アルファルファやチモシー、スーダングラス、クレイングラスなど、ほとんどの草種で収穫時期に雨当たり被害が発生する未曾有の事態となっています。

日本の輸入飼料にとっては、雨が降ってほしい地域（中西部）に降ってほしい時期に降らず、雨が降ってほしくない地域（西海岸）に降ってほしくない時期に降ってしまうのが、産地米国での現状です。



## インペリアルバレー（エルセントロ）降雨被害の状況

輸出向けスーダングラスとクレイングラス、およびバミューダの主産地であるインペリアルバレー（エルセントロ）で、7/30から31にかけて、当地では季節はずれの非常に激しい降雨がありました。このため、収穫中のスーダングラスについては甚大な雨当たり被害が発生しています。

各サプライヤーとも工場施設内が水浸しとなったため、出荷作業を中断して復旧作業に追われています。集荷済みのスタックにもダメージが発生するため、想定以上にロスが発生することと、先々の船積みでカビが頻発する可能性も、12年産が始まったばかりの現時点で既に懸念され始めています。



エルセントロ 降雨被害状況 いずれも8/2撮影

## ビートパルプ

<米国産>

50年ぶりとも言われる早魃が中西部を襲っていますが、輸出向けビートパルプの主産地であるミネソタ州とノースダコタ州（ともに中西部の北でカナダ国境に接する州）は、あまり早魃傾向ではないため、生育は現時点では概ね順調に推移している模様です。しかしながら、穀物相場が高騰しているため、米国内酪農家からのビートパルプの引合いが増えてくることが懸念されています。ビートパルプの産地価格は弱含むことなく、高値で推移することが予想されるため、今後の動向には注意が必要です。

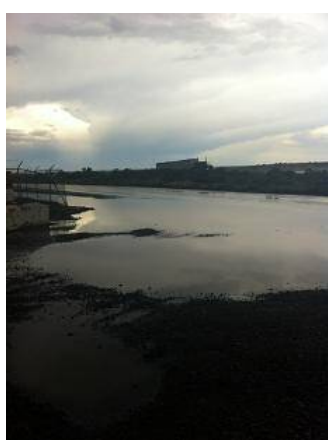
## アルファルファ

<ワシントン産>

前月号でご案内の通り、ワシントン州コロンビアベースンでは、1番刈の60%程度が雨当たり被害を受けました。プレミアム品の発生量は限定的となっています。また、産地では3タイの発生量が大きく減少し、1番刈はほとんどが生産効率の高いBIGベールでの生産となっています。

2番刈の収穫は6月下旬から始まりましたが、7月中下旬に降雨があり、2番刈でも50—60%程度の雨当たり被害を受けた模様です。プレミアム品の発生量は限定的で、雨当たり被害を避けて収穫された刈遅れ気味のスタックも発生しているようです。ノーレイン品の品質については、湿度が高かったことによる色あせ（ブリーチ）や、暑かったことにより開花がみられるスタックが多くなっている模様です。また、1番刈と同様に3タイの発生量が減少し、生産効率の高いBIGベールでの生産も多くなっています。

ワシントン産アルファルファは、昨年と同様に1—2番刈の作柄が悪い結果となりました。3番刈の作柄に期待も集まりますが、産地価格については弱含むことなく、11年産の繰越在庫もないため、このまま高値で推移することが予想されています。



左：コロンビアベースン 降雨被害状況 7/16撮影



右：コロンビアベースン アルファルファ2番刈検品スタック 7/27撮影

### <オレゴン産>

クリスマスバレーでは、6月下旬から1番刈の収穫が始まり、7月中旬までには収穫が終了しました。6月に入ってから気温の低い日があり、降雪もあった模様です。そのため生育が思うように進まず、単収が例年の70%程度にまで減少していると伝えられています。

クラマスフォールズでは、6月上旬から1番刈の収穫が始まり、6月中には収穫がほぼ終了しました。クリスマスバレーと同様に6月にも気温の低い日があり、単収が例年の70-80%程度にまで減少した模様です。また収穫期に降雨もあったため、20%程度の雨当たり被害が発生しています。

両産地ともワシントン産の状況を受けて、12年産も引合いが強まることが見込まれています。11年産の繰越在庫もないため、産地価格も引続き強含みで推移することが予想されています。また近年の傾向通り、生産効率を考慮してBIGベールでの収穫が増えており、12年産もますます3タイのプレミアム品の確保が難しくなっています。

### <ネバタ産>

産地では、6月上旬から1番刈の収穫が始まりました。6月中下旬に降雨があった模様で、40-50%程度の雨当たり被害が発生している模様です。2番刈については7月上旬から収穫が始まっていますが、7月にも降雨があったことから、雨当たり被害の発生と、刈遅れ気味のスタックが多く発生することが懸念されています。

### <ユタ産>

産地では、6月中旬までに1番刈の収穫がほぼ終了しました。収穫時期の天候は概ね良好で、雨当たり被害はほとんどなかった模様です。2番刈については7月上旬から収穫が始まっていますが、一部で雨当たり被害が発生していると伝えられており、刈遅れ気味のスタックが多く発生することも懸念されています。

### <カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、5-6番刈の収穫が始まっています。産地を襲った7月末の激しい降雨はアルファルファにも影響を与えていますが、一般的に成分・品質が落ちる「サマーヘイ」と呼ばれるアルファルファの発生が中心となっているため、日本向けについては大きな影響がないと考えられています。しかしながら、産地価格もようやく軟化し始めてUAE向けが徐々に買付けに力を入れ始めた、と言われていた矢先の降雨だったため、今後はUAE・中国向けの動向次第では、他産地も含めてアルファルファ全体で間接的に影響を受ける可能性もあり、注意が必要です。

## チモシー

### <米国産>

1 番刈の収穫が6月中旬から本格的に始まり、良品の収穫が期待されていましたが、前月号でご案内の通り、6月下旬に激しい降雨があったために状況が一変しています。その後、7月にかけても降雨がありました。サプライヤーによって情報に違いもありますが、エレンズバーグでは60-70%程度が、コロンビアベースンでは40-50%程度が雨当たり被害を受けたと言われており、近年まれにみる厳しい状況となっています。雨当たり被害を免れた圃場も適期に刈取れず、刈遅れ気味となるスタックも多いと予想されています。馬向けも酪農向けも、ハイグレード品の発生量は非常に限定的となることが見込まれており、確保は極めて困難な状況となっています。そのため、産地価格についても一転して堅調に推移し、また11年産の繰越在庫もないため、特にハイグレード品は非常に高値で推移しています。

産地では2番刈の生育中ですが、穀物相場の高騰を受けて、転作が進められる圃場も多い模様です。そのため2番刈の作付面積については、前年対比で50%以上も減少することが一部では予想されています。



エレンズバーグ チモシー1番刈検品スタック（雨当たり品） 7/27撮影

### <カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）では、1番刈の収穫が7月中旬から始まっています。収穫時期に雨当たり被害が発生したため、ハイグレード品は5%にも満たず、中間グレード品中心の作柄となっている模様です。

ドライランド（中央アルバータ）では、1番刈の収穫が早い圃場で7月下旬から始まりました。ここでも8/2に降雨があり、予報では今後も良くない模様なので、作柄への影響が懸念されています。

両産地とも米国産1番刈の状況を受けて、12年産は強い引合いでスタートしています。米国（ワシントン州）のサプライヤーも、自社での馬向けハイグレード品の不足分を補うために、買付けに来ているとも伝えられています。まだ集荷が始まったば

かりですが、11年産の繰越在庫もないため、特にハイグレード品の産地価格については非常に高値で推移している模様です。

## スーダングラス

＜インペリアルバレー産＞

12年産は、1番刈の収穫が6月上旬から本格的に始まりました。前月号までにご案内の通り、スーダンの種子価格高騰を受けて、一部の生産農家では面積あたりの播種量を減らして密集せずに生育させていることや、例年よりも早くから40℃を超える暑い日が続いたことから、茎が太めに仕上がっているスタックや、茎サイズにバラつきが目立つスタックが多く生産されました。そのため、純粋な茎細のハイグレード品については、当初から早播きスーダングラスの作付面積が減少していることにより予想されていましたが、発生量も予想以上に限定的となっています。どのサプライヤーも、買付け進捗は近年まれにみる悪さとなっており、茎細ハイグレード品は需要に対して大きく不足することが見込まれています。

12年産スーダングラスは、ハイグレード品の品質が例年より落ちる（茎サイズにバラつき）にもかかわらず発生量が限定的で、11年産の繰越在庫もないため、産地価格については昨年よりもさらに高騰してスタートしています。また、茎細ハイグレード品と中間グレード品、およびライトカラー品とスタンダードカラー品との価格差が、昨年より大きく広がることも見込まれており、同じ「スーダングラス」でもグレードや品質によって、大きな価格差が生じることが予想されています。

産地では早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅播きのスーダングラス（アフターウィート）の収穫が待たれていましたが、7月末の激しい降雨により事態は急変しています。これ以上の茎細ハイグレード品の発生が難しくなるだけでなく、中間グレード品やローグレード品の発生量についても、予想よりも減少する可能性が出てきています。今後の動向には注意が必要です。



インペリアルバレー スーダングラス検品スタック

（左右とも同スタック・茎サイズにバラつき目立つ）

7/16撮影

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では3番刈の収穫中で、7月末の激しい降雨により、ベーリングを終える前の圃場で雨当たり被害を受けました。7/13にも降雨があったため、品質と生産量への影響が懸念されています。1番刈と2番刈の品質については、冷涼な気候で収穫が遅れた昨年の11年産と比較すると良品の発生が多い傾向にあります。

早くから11年産の在庫もなく、生産コストも上昇している状況下で、韓国と日本向けに強い需要が今後も続くと思込まれているため、クレイングラスの産地価格は引き続き堅調に推移しています。



左：インペリアルバレー クレイングラス2番刈検品スタック 7/16撮影

右：プライス クレイングラス3番刈圃場 7/20撮影

## バミューダ

バミューダヘイ用の圃場では2-3番刈の収穫が進んでいますが、バミューダヘイ、バミューダストローともに、7月末の激しい降雨により雨当たり被害を受けました。特にストローについては、酷く被害を受けている模様です。早くから11年産の在庫もなく、バミューダの種子価格が高騰し生産コストも上昇している状況下で、国内向け、輸出向けともに強い需要が12年産も続くと思込まれているため、今後も引き続きタイトで、産地価格も弱含むことなく推移することが予想されています。

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

12年産について、フェスキューストローは7月中旬から、ライグラス（ペレニアル種）ストローは7月下旬から収穫が始まりましたが、一部で雨当たり被害が発生している模様です。早くから11年産の在庫もなく、年々減少している作付面積は今年もやや減少すると言われているため、12年産以降もストロー類は引き続きタイトで、産地価格も弱含むことなく推移することが予想されています。

## 豪州産オーツハイ

### <西豪州>

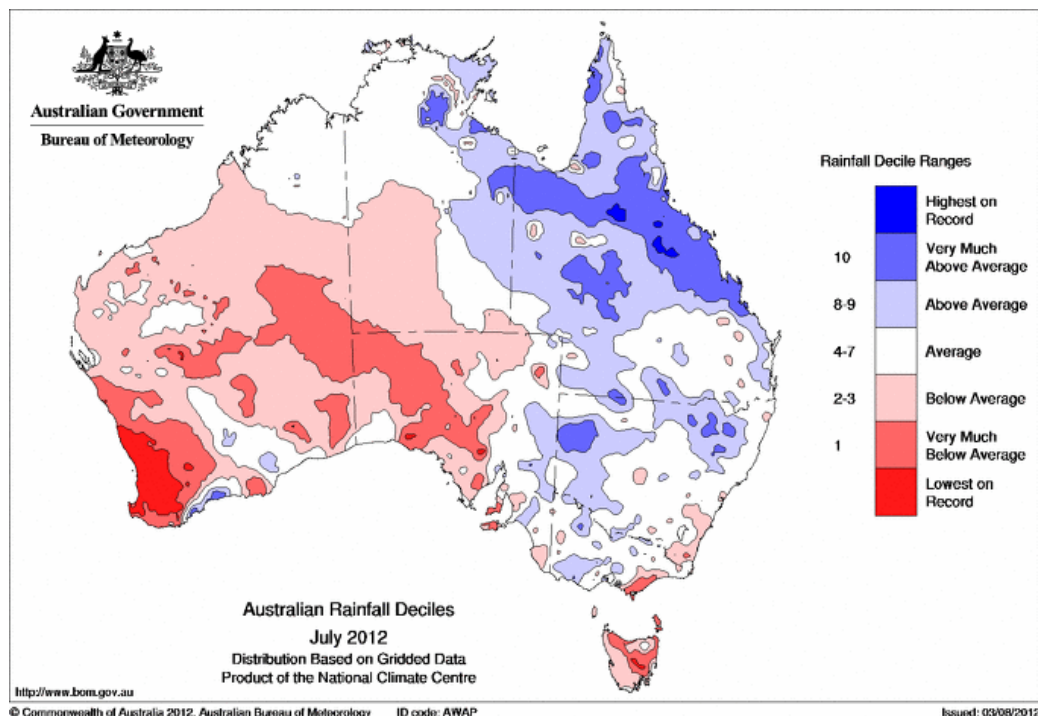
西豪州では、播種が終了しています。6月に十分な降雨があって生育は順調と伝えられていましたが、7月は記録的な降雨不足に見舞われており、早魃傾向となっています。12年産の作柄について予想するには時期尚早ですが、このまま乾燥した気候が続くことになれば、一昨年の10年産のように極端に収量が少なくなることも考えられます。7月31日に降雨があったとの情報もあり、産地ではどれほど土壌水分が回復したか、今後の情報が待たれています。

### <南豪州>

南豪州でも、播種が終了しています。西豪州とは違い、7月にも産地では例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられています。

### <東豪州（ヴィクトリア州）>

ヴィクトリア州でも、播種が終了しています。南豪州と同様に7月にも例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられています。この地域は豪州国内で最大の酪農・肥育の生産州で、放牧草の生育が良くない模様と一部で伝えられています。オーツハイのローグレード品の引合いが強くなる可能性もあり、注意が必要です。



豪州 2012年7月を対象に平均降雨量と比較した図

西豪州主産地の7月の降雨量は、観測史上最も少なく（Lowest on Record）、赤く染められている。

以上